



山根漆器製造の歴史

日置地区まちづくり協議会 会長 城市 好春

先月11月21日(木)、山根集落出身の医師でもある塩 孜(つとむ)先生の実家に、兵庫県美方郡香美町小代区(かみちょうおじろく)から14地区の各自治会代表者17名の皆様が視察研修にいられました。

塩旧家(屋号は塗師屋(ぬしや))にご案内すると、孜先生と弟の薫さんの温かいお出迎えをいただき、お互いの挨拶の後、まず蔵へご案内いただきました。最初に見たものは漆器(木の椀)に重ね塗りするため漆を混ぜる径90cm、厚み15cm位の3個の木器です。器の中には長年使い込んで磨り減ったものもあり、かなりの労力のあとが見えます。ここで複数の職人さんが大事な工程をこなしていたとのことでした。

その後、案内された本宅の奥座敷には煮物を盛り付ける30cm位の蓋付きの器が3個、汁物を入れる12cm位の器が30個、すべて絵柄入りの漆器です。また鴨居には40cm位の長方形の蒔絵額が数点あり、その見事さに皆さんが感動されていました。

話はもう少しのめり込みます。大正初期発行の『鳥取県書画百芸名人集』に“元文元年美作国大庭郡原村(現在の岡山県真庭郡川上村)の久右衛門という人が山根村に來り漆器業を始む”と記されているようです。

また、『山根漆器起因記録』によると“作州に度々往来していた武平(山根の横川則夫さんの五代前)から郷原の漆器工芸の話聞いた市兵衛(塩孜さんの六代前)が三十五歳の時、心安い武平が漆物師久右衛門を招いてその技を習う”とあります。そうして製品になった漆器を売って生計を立てていたそうです。

かつて、香美町の木地師が加工した漆器の元となる製品を山根の塗師が漆器にして大八車(今も残っている)で青谷駅まで運び(途中3ヶ所休憩所有り)各地へ売っていたとの説明に、香美町の方々も、今なお残っている漆器や旧家の造り、庭の美観に感動されるとともに、香美町との縁に感慨深い思いを感じておられました。

その後、予定になかったあおや和紙工房を見学し次の視察地の米子方面へ向かわれました。

最後に、日置には誇るべき歴史があることにこの程気づかされました。



健康づくり講座に77人

福祉部会長 中宇地 節雄



塩孜(しおつとむ)先生

5回目となる健康づくり講座を12月1日に開き、会場の日置地区公民館多目的室は77人という多くの参加者であふれました。健康づくり講座は当初10月12日に開催する予定でしたが、台風のため延期していたものです。

当日は、山根出身で三朝温泉病院リウマチ・膠原病内科診療部長の塩孜(しおつとむ)医師を講師に迎え、「生活習慣病と予防について」の演題で講演していただきました。

まず鳥取県の現状として、がん死亡率が全国2位、糖尿病死亡率(男)4位、歩数(男)47位・(女)45位、飲酒率(男)2位、タバコ喫煙率(男)3位、塩分摂取量(男)19位・(女)4位、野菜摂取量(男)28位・(女)38位など、鳥取県民の生活状況が示されました。

死亡率が高い心臓病や脳卒中への関係が指摘されている高脂血症や高血圧、動脈硬化、糖尿病など、不適切な生活習慣によって進む病気は「生活習慣病」と呼ばれていますが、生活習慣を改善すれば予防ができることも提起がありました。

生活習慣の改善点として、食事の塩分摂取量を減らす、飲酒は適量で、タバコは禁煙、朝食は抜かない、間食はしない、ラジオ体操やウォーキングなどの適度な運動をする——など、たいへん具体的にわかりやすいお話でした。



大人気の健康づくり講座



来年3月8日(日)には、4回目となる「健康づくりウォーキング」を実施することにしており、今回は山根を歩く予定です。健康づくりとあわせて、日置地区の再発見にもつながるものと思います。

ぜひとも多くのおみなさまがご参加くださり、春の日置を散策しましょう。

好評!

手 作 り み そ

みそを手作りしよう!

- 1/23 (木) 2組
- 1/30 (木) 2組
- 2/6 (木) 2組
- 2/13 (木) 2組
- 2/21 (金) 2組
- 2/27 (木) 2組



左記の日程でみそ作りをします。1組5名で作ります。1名様からでも調整しますので、ご相談ください。参加費は3,500円(1名)です。お申し込みは日置地区公民館まで!

電話 86-0836

まち協今後の予定

日置を語る会
2/15 (土)
13:30~
日置地区公民館



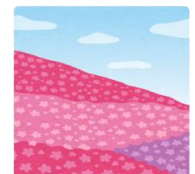
日置川清掃
3/15 (日)
8:30~
集合 各集落公民館
(予備日3/22 (日))



健康づくり
ウォーキング
3/8 (日)
9:00~11:30
集合 日置地区公民館



芝桜植え(山根集落)
3月



2020年もよろしくお願ひ致します



「食・酒・手仕事」の会が開催されました

まち協工芸の郷担当 長谷川 具章

「ひおき工芸の郷」魅力発信事業として、10月19日（土）に大坪の山根酒造場を舞台にして、「食・酒・手仕事」の会が開催されました。

日置川沿いの谷は、伝統的技術を基礎とした因州和紙の里であり、伝統工芸に根ざした染織（山下染織工房）や窯元（山根窯、ひおき窯）等の手仕事があります。また、創業120年となる山根酒造場は、酒蔵文化ともいえる酒造技術や手仕事の歴史があり、日置桜酒造資料館で情報発信しています。

第1部は、日本各地の酒蔵や伝統的な発酵食の現場取材してきたライター藤田千恵子さんと山根酒造場の山根明子さんとの発酵トークで、発酵がもたらす食の美味しさ、その手間と手仕事の魅力などが紹介されました。

第2部は、蔵人たちの宿泊場所を一部改造した「野良」でのわかち合いの会です。予約不要での食を通じた語り合いの場で、山根酒造の各種酒、趣向をこらしたおつまみと山根窯の器への盛り付け、ひおき窯の花瓶による飾り、地元野菜、お米、味噌などの販売が行われました。因州和紙、染織、パネル等の装飾・展示もなされ、予想以上の来場者で大盛況となり、食・酒・手仕事の魅力を満喫しました。伝統工芸や手仕事、地元産食材など、この地域には魅力ある資源がたくさんあります。「ひおき工芸の郷」の事業を通じて、これらの魅力発信や再認識、賑わいづくりにつながってほしいと思っています。



<環境部会の活動報告>

環境部会長 長谷川 憲人



三桮(みつまた)植え



9月22日（土）運動会前の環境整備作業には、多くの方々のご協力をいただきありがとうございました。

先日の、ひおき収穫祭&因州和紙フェスタの日、三桮の苗木約100本を、環境部会・和紙保存会のメンバー共同で、鳥取県林業試験場の矢部技師や房安豊信さんの指導を受けながら地元の小中学生や来場者に、自分の名前を書いたプレートを付け植樹してもらいました。3月頃には黄色い花が咲くでしょう。年々大きく成長し和紙の里らしい景観になることを願っています。

来年には、芝桜植え、3月15日（日）には日置川清掃（予備日3月22日（日））を予定しています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

<特産品部会の活動報告>

特産品部会長 伊藤 博光

収穫祭で今年度の新そばを、そばサークルの皆さんの協力で、地域の多くの方に、おいしく食べて頂く事ができました。

心配しておりました今年度のそばの収穫は、10月16日に刈取りをし、全体で113kgとますますの収穫量でありました。ただそのうち、新しく取り組んだ畑での収穫量が83kgと7割強を占めており、そば作りの難しさを思い知らされました。

休耕田の美化・多くの方がそば打ちができるようになり、地域の活性化に繋がればとの思いから、そば作りの取り組みをして9年目、ここ3~4年収穫量が激減、異常気象等も続いたなかで、不作の原因がよく分からなかったのですが、今年度の取り組みではっきりしました。同じ場所でのそば作りを長く続けた結果、連作障害を起こしたものでした。

今後は連作が続いた場所でのそば作りは、抜本的に考えなくては難しいと危惧しております。まち協として今後どう取り組むのか、対策を含めて方向を見定める事が大切かと思われま

す。とにもかくにも今年一年、そば作りのため草刈りなど多くの方にご協力いただきありがとうございました。



収穫祭のそば打ち



作業へのご協力
ありがとうございました

<防災部会の活動報告>

防災部会長・区長会長 長谷川 寛

今年計画していた総合防災訓練は、地震研修会と通報避難訓練だけの開催となり残念でした。今年も多くの自然災害が発生しました。地区の防災マップを見ても、ほとんどが危険箇所です。最終的には自分の命は自分で守るという事でしょうか。

区長会長の役で、色々の会議に出席の機会がありました。その中に「鳥取市生活交通創生ビジョン策定に向けた意見交換会」というのがあります。短く言えば、過疎バス対策です。

今現在、県内に35のバス路線があり、その内3路線がきびしい状況です。その中に日置、勝部の2路線が入っています。日置線は市から1,000万円の補助を受けるも、100万円の赤字。勝部線は、同じく1,200万円受けて300万円の赤字。いつまでもあると思っていた保育所、小学校、農協、次はバス？

私も何年か先には運転免許の返納を、と考えています。日々の生活に流されがちですが、田舎に住むという事は、抱える問題が多々という事でしょうか？皆で知恵を出し合いましょう。



地震研修会の様子

